

ぴぴっと

ぴぴっと(PPT)とは...Paper (新聞) Practice (実践) Theory (理論) Philanthropy (社会貢献)

平成17年3月1日

発行

ぴぴっと(PPT)研究会

そして..春

雪の多い冬だった

けれど その雪の下
少しずつ暖められた土の中
芽吹こうとする草々

日差しのぬくもりに
木々の芽も蕾も緩やかにふくらみ

そして
南から吹く風に乗って
色鮮やかな春がやってくる

小鳥のさえざりに耳をすませ
花の季節を迎えよう

目次

- P1 味あらかると
- P2~3 虹のひろば・さんやそう
- P4~5 子どもぴぴっとクラブ通信
- P6 Q & A・年間計画
- P7 まうすりいだより
- P8 新聞まめちしき・春だより・編集後記



味あらかると

第六十回国民体育大会冬季大会スキー・バイアスロン競技会(岩手りんどう国体)が平成十七年二月二十二日から二十五日までの四日間、安代町の安比高原スキー場を中心に四会場で開催された。

本県でのスキー国体は一九九八年のいわて銀河国体以来七年ぶり三度目で、いずれも安代町での開催である。「還暦」の節目となった本大会は「雪さらら 人情たわわ 汗さらら」をスローガンに、全国四十七都道府県から役員、選手約二千二百人(選手約千六百人)が集った。二十二日の開会式直前には、北上鬼剣舞連合会が勇壮にアトラクションを披露し白銀の祭典を盛り上げた。

競技は二十三日から三日間大回転・ジャンプ・距離・複合のスキー四種目と公開競技のバイアスロンが行われた。

岩手県勢の活躍は毎日それぞれの新聞やテレビで詳しく報道された。前回成年Aで活躍した選手が成年BやCで活躍するなど話題も豊富である。

私は自分自身スキーが好きなこと、知人が大回転に出場することもあって、二十三日安比高原スキー場に向かった。朝七時、北上・江釣子インターを出発のときから高速道は吹雪だった。もちろん、安比高原スキー場は猛吹雪、それでもいくつかの競技は行われ、雪の精鋭は輝きがっぱっていた。そのなかで、大回転は残念なことに十人だけが滑り、次の日に延期となった。

そのうえ、帰りはことさら大変だった。高速道は通行止め、しかし、知りたい情報は入らない。つくづく岩手は広いと思った。ふと、「スポレクいわて2005」が北上を主会場に行われることに心が走った。



子どもの心身の健全な発達を願って

・・・ 保育所・家庭が連携して子どもの食生活を考える・・・

沢内村では、かなり前から子どもたちの食生活の大切さについて、学校保健会の課題として取り組んできました。社会的にも、子どもの健全な成長のために食生活が重要であり、食生活の乱れが子どもたちの成長に悪い影響を与えているともいわれています。

そこで、子どもの食生活をよりよいものにしていくためには、生活の基盤である家庭との連携が大切であると考えて、色々な取り組みを試みしましたので、その一部を紹介します。

<家庭と保育所（保育士・調理師・栄養士・保健師）との連携>

1. 給食の保育参加と参観（5月～1月まで、保護者の希望する期日に実施）

アンケート調査より「野菜を食べない、食事のマナーがよくない」等のことが浮き彫りになったので、一日保育士として保育所の生活に参加し、参観をしていただく。

2. 家族でのポスター作り（次ページ参照）

家族で食材のこと、料理のこと、食事のマナーのこと、リサイクルのことなどを話題にしながらかポスター作りをした。どれも力作で、村のイベントである「ふれあい広場」に展示したり、保育所の玄関にはりだしたり、さらに、地域の温泉宿泊施設に展示し家庭だけでなく、地域の人々に対しても食事に関する意識化を図ることができたと思う。

3. ノーテレビタイムの実施

「食育」という観点から、家庭における食事時のテレビ視聴の実態を調査したところ、ほとんどの家庭で「テレビを見ながら食事をしている」ということがわかった。そこで、「せめて食事時の30分～1時間はテレビを消して、食事に集中することで、話をしたりマナーを教えてあげてほしい」という願いから、保護者に働きかけて「ノーテレビタイム」の実施（試験的に）してみた。その結果賛否両論があったが、一応3月まで、規制するのではなく家族の実情に合わせて実施することになっている。

4. サンプル展示

その日に子どもたちが食べた給食の一人分をサンプルケースに入れて、降所時間に合わせて玄関に展示し、子どもと保護者に保育所での食事、そして家庭での食事について関心を高めてもらうことができるのではないかと思い実施することにした。

- * 子どもたちが保育所で、何をどれくらい食べているのか把握できる。
- * 子どもの発達過程に応じた料理の組み合わせ、食材の大きさ、調理方法がわかる。
- * 家庭でも保育所で提示した料理を作ろうとする意欲が出てくる。
- * 家庭で保育所の食事を話題として、親子のコミュニケーションを図ることができる。
- *

保育所と家庭が連携しながらの食事の指導は、取り組んでみて「子どもの健全な心身の成長の基本は食事である」ことを改めて確認できたように思います。

畑保育・クッキング活動・ノーテレビタイムや保護者への情報提供等々課題は多く、今まで以上に家庭としっかり手を取り合って活動を進めていきたいと考えています。

家族で作った食育ポスター



オランダガラシ (クレソン)

さんやそう

この写真は、前号に掲載した“茶の花”と同じ日に、すぐ近くにあり、冬を迎えるこの時期にセリとともに小川いっぱい緑に繁茂していた。兄は、これを金魚の水槽に水草として入れて目で楽しみ、大きくなればサラダにしている。

「立花（北上）の田んぼ脇になんぼでもあった。草刈りしても追いつかないくらいだったよ。」 犬の散歩が楽しい発見ともなったようだ。

クレソンといえばビフテキの脇についてくるあの生野菜。現在は、全国各地の清流に雑草として繁殖しているが、元々はビフテキのつまに高級野菜として輸入されたものだとか。そのまま食べると苦みがあるが、他の味をあわせると不思議と苦みは消える。年中食べることができるおすすめの野菜である。

おかげさまで、この暮れには他の山菜と共に多くの方への贈り物となった。「スーパーで結構な値段がついて並んでいるよ。まだ、食べたことのないの。どうやって食べればいいのか。」返礼の電話が来るたびに、子どもの頃に遊んだ懐かしい野山からの贈り物に話の花が咲いている。なんとアットホーム。

(文・写真提供 / 沢内村 大石 信夫氏)

子どもぴぴっとクラブ

平成 17 年 1 月 19 日開催

私は漫画家

☀️ 新聞の 4 こまマンガを使って活動をしました。

- ・ バラバラになった 4 こまの順番を考える。
- ・ 「サザエさん」の 4 こまマンガに題をつける。
- ・ 「ののちゃん」の 3 こま目を考え、実際に書いてみる。
- ・ 自分で 4 こまマンガを書いてみる。

《3 こま目を変えてみよう》

作品例



4 こまマンガは、その時々の時代背景や社会事象なども反映されており、主人公の性格や心の様子が子どもたちにも捉えやすいので、今回取り上げてみることにしました。

会長談



6 年女子の作品

新聞づくり講習会

1 月 8 日開催

番外編

子どもぴぴっとクラブが発足して 3 年目の今年、“番外編”として初の新聞づくり講習会を行いました。2 年生から 6 年生まで 8 名が参加。新聞づくりは初めてという子もいましたが、全員が個性溢れる新聞を時間内に仕上げる事が出来ました。





小学生の子どもたちを対象に、遊びを通して新聞に親しみ、表現力や国語力を自然に身につけてもらおうと、ぴぴっと研究会が主催している会です。

茶道に親しもう

✿ 裏千家教授の大島禮子先生を講師に迎え、茶道にふれました。大島先生のお着物姿に、凛とした空気が…。お茶が初体験のこどもも多く、いつもは元気な子どもたちも緊張した面持ちでお道具の名前や使い方の説明を受けていました。



大島禮子先生



✿ お茶を頂きながら「にが～い」と大騒ぎする子も…。雛祭りにちなんだお菓子に、季節感を感じながらのお茶会となりました。



子どもたちの感想から

- マンガづくりが楽しかった。お茶が苦かったけど、楽しかった。(4年 男子)
- まっちゃもおいしくて、おかしもおいしかったです。マンガを作るのも大変でした。(2年 男子)
- マンガやお茶会がたのしかったです。(4年 男子)
- マンガを書くのがちょっと大変だった。(3年 女子)
- はじめて4こまマンガに挑戦したけど、何とかできたのでよかったです。さい後もたのしかったです。(2年 女子)
- さい後でもおもしろかったし、お茶をのめてうれい。またやりたいと思いました。(2年 女子)
- 3年間ありがとうございました。(6年 男子)



4こまマンガ、お茶、終了証、楽しかったです。 2年 女子

新聞づくりQ&A

16

新聞づくりに役立つ、用語や記号を教えてください。

(北上市 小学生)

新聞づくりに役立つ、用語や記号には 活字、書体、約物(やくもの)、罫線、コラム、見開き、エトキなどいろいろあります。今回は、約物(やくもの)について考えて見ましょう。

約物(やくもの)とは、印刷用語で文字・数字以外の各種記号活字の総称を言います。

用語・記号編 約物(2)

2. カッコ類

- | | | | |
|-----|------------------|-------|------------|
| 「 」 | かぎ ひっかけ | 『 』 | 二重かぎ |
| () | かっこ パーレン | (()) | 二重パーレン |
| { } | キッコ | [[]] | 二重キッコ |
| 【 】 | すみつきパーレン | { } | 中かっこ ブレース |
| | 山パーレン ギュメ | 《 》 | 二重ギュメ |
| [] | 大かっこ | | アポ コーテーション |
| “ ” | ダブルアポ ダブルコーテーション | | |

3. つなぎ記号

- | | | | |
|---|----------|---|--------|
| - | ハイフン | = | 二重ハイフン |
| | ダッシュ | ＝ | 二重ダッシュ |
| ~ | 波ダッシュ 波形 | | |



平成17年度 ぴぴっと(PPT)研究会 年間活動計画



項目 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
子どもぴぴっとクラブ												
ぴよぴよぴぴっとクラブ												
新聞づくり講習会												
新聞を読んで今を語る会(まうすりい)												
会報「ぴぴっと」												
各種全国大会参加												
総 会												

まうすりいによせて

北上市立黒沢尻北公民館

館長 高橋 英夫

まうすりいだより⑩

参加者寄稿のコーナーです

私が「新聞を読んで今を語る会（通称：まうすりい）」にかかわったのは、第2回目のおりだったと記憶している。主催者であるびびっと研究会の小笠原味佐枝会長とは周知の間柄であり、まうすりいの会場が当公民館ということもあり案内を受けたのである。

当日はやや参加会員が少なく、正直なところ先行きを心配しながら、いわゆる「知的な井戸端会議」にやや傍観的な気分で参加したのであった。

「新聞を読んで今を語る」とはよく言ったもので、各自が気になる新聞記事について思ったこと・感じたことなどを述べあい、それについて自由にディスカッションするという形式で会は進められた。私もその中で少しばかり思ったこと等述べさせてもらった。

終わってから気づいたことだが、今TVなどの情報化社会の中であって、少々地味な気もする「新聞記事」を取り上げて活動する会 その今だからこそ大事な発想であり、時代が要請している方向を指しているのではなからうかとも思う。

さて、今回「まうすりい」についての寄稿ではあるが、折角の場であるから、びびっと研究会並びに会から毎回届けられる「会報びびっと」について感じたことを併せて載せさせて頂こうと思う。

「会報びびっと」について

- ・毎回色どりが明るく、内容が多面的・豊かで読み手の心を知っているようで、すばらしいと思う。
- ・「子供の心を耕す読書のすすめ」は、とても参考になり、北公民館での子供の図書館づくりに役立てたい。
- ・「虹の広場」は、地元学という視点から捉えるよい見本と言えると思う。
- ・「子どもびびっとクラブ通信」は、子どもの持つ可能性を引き出してくれる場。

「びびっと研究会」について

目の輝く仲間をひとりでも増やしなが、今後の更なる活動に期待したい。



新聞を読んで今を語る会（通称まうすりい）は、「ちょっと知的な井戸端会議」を合言葉に複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事まで、いろいろな事柄について楽しくディスカッションしながら、おたがい刺激しあって自分を高めていくことを願いスタートした会である。びびっと研究会では、平成13年4月より「まうすりい」を開始。平成17年3月で48回を数える。

毎月第2火曜日、10時から12時まで北上市立黒沢尻北公民館を会場に開催中。
参加希望者はどなたでも大歓迎！！

新聞まめちしき その17

珍名新聞・珍名雑誌続々登場す

明治16年の新聞紙条例改正によって保証金の前納を義務づけられるまでは、猫も杓子も新聞雑誌の出版を試みるという状況で、珍名新聞・珍名雑誌は主としてこの時期に発生した。これらには、権力へのレジスタンスと、単に注目を集めるために奇をてらったものとの二通りがある。

明治10年の「团团(まるまる)新聞」や翌11年の「溺濤叢談(出来ねい相談)」などは前者、同年の「生意気新聞」「月とスポンチ」などは後者であろう。

(「太陽コレクションかわら版新聞」より抜粋)

編集後記

気分的にはとっても春が近づいてきているのに、気温はさっぱり上がりず、雪かきばかりの毎日にもううんざり。寒冷地に住んでいるのだから仕方ないのですが、本当にもう冬はたくさん・・・と思うのは私だけでしょうか。

などと愚痴ばかりこぼしていないで、新しい春に向かって邁進しましょう!



ご意見・ご感想をお待ちしております

びびっと(PPT)研究会

〒024-0012

岩手県北上市常盤台 1-14-12

Tel・Fax 0197-64-0758

E-mail: agi@titan.ocn.ne.jp

ホームページ: www.npo.2000.net/ppt/

春だより

八十才のおひな様

我が家には、三つのおひな様がある。

一つ目はいつも玄関に飾る小さな土人形。一人暮らしを始めた時に自分用に買ったものだったのだ。

二つ目は、娘が初節句の時に、ジジババが買ってくれたものだ。内裏雛というやつで、お内裏様とおひな様が仲良く並んでいる。

三つ目は、母が生まれた時に母の実家で買ったものらしい。

母が生まれた時だから、今から八十年も昔のことである。私が物心ついてから見てきたおひな様といえば、この八十才にもなる古い古いおひな様である。

これは、ごく普通にみかけるおひな様とは大分違う。掛け軸に押絵でできたおひな様をひっかけて飾るものである。最近ラ

ジオでそれが「くくり雛」というらしいことを知ったばかりだ。

うちに来る前はなぜか兄の所に長年いた。ところが、さっぱり飾りもせず、ほったらかしだというので、十年程前それじゃあど喜んで譲り受けてきた。

久しぶりに見るうちのおひな様は、やけにお顔が面長で、着ているものも古ぼけてはいた。でも、やっぱりうちのおひな様

なのだ。

このおひな様を見ると、小さかったころのことを鮮明に思い出す。毎日友だちと通った道端の小さな祠のお地藏様、お百姓さんに入るなど叱られたレンゲ畑、今は亡き父の背中越しに恐々のぞいたため池・・・。今でもふっとそこに入っているような錯覚に陥る。

今年八十才のおひな様を見ながら昔をまた懐かしんでいる。(N)